

今日のキーワードは「考え直す」です。兄と弟は、最初に言った言葉と逆のことをしています。兄は、はじめは「働きに行かない」と言っていますが、実際には行きます。反対に、弟ははじめは「働き行く」と言いますが、実際には行きません。この考え直す＝心変わりの箇所を読むといつも思い出す、召し出しに関わる 2 つの体験があります。

1 つ目です。大学を卒業する頃、少し司祭の召し出しを考えたことがあります。大学生のための講座を指導されていた松本神父さんに相談に行きました。松本神父さんは「どうして司祭職を考えてるの？」と聞いてきました。私は、正直に答えました。「人手不足のようなので、自分が犠牲になってもいいです」と。松本神父さんは「いや、それは違う。人手不足かどうかではなくて、柴田君にとって司祭が幸せな道かどうかが大事です」と言われました。「そうか！ 成り手不足だから、司祭を目指すのは動機が弱いのか」と感じました。また、父にも少し話しました。すると「かすみで飯は食えない」と言ってくれました。「社会に出て、自分で食べられるようになるのがまず大事だ」と言ってくれました。松本神父さんと父の話で私は考え直しました。

それから、12 年経って、私はイエズス会に入会を志します。その時の管区長は、学生時代に助言をくれた松本神父さんでした。反対して心配する家族（母と姉）と松本神父さん、柳田修練長が面会をしてくれました。私は、家族を説得してくれるものと思っていましたが、期待通りになりませんでした。母も姉も涙を流して反対する雰囲気は変わりません。母は「司祭になるまで 10 年もかかるなら、私はもう生きていない」と言います。松本神父さんは「家族に大切にされてるということです」と言われましたが、誰にも家族の説得はできないことがわかりました。

やっと、入会して広島市長束の修練院に入って 2 週間後、また、心変わりする出来事が起きます。サラリーマンの生活から、慣れない修道生活に飛び込んだ私は違和感の大きさに「もう無理だ！」と思い悩んでしまいます。夜に柳田修練長の部屋をノックします。「自分には続けられる自信がないので、もう辞めようと思います」と言いました。すると修練長は「長い間、勤めてきた会社も辞めて、ご家族の反対があっても入会したのだから、1 ヶ月の霊操で祈りを身に付けてから考えたらいいんじゃないですか？」と言ってくれました。柳田修練長は会社で務めた経験もおありだし、私の家族とも会ってくれていたのが良かったのだと思います。私は心変わりして、修練院に残ることにしました。

2 つの心変わりは、私の人生にとっても重要でした。1 回目、もし松本神父さんが「修道会は人手不足だから、柴田君に入ってもらったら助かるよ」と言われていたら・・・「自分は人手不足解消のために司祭になるんだ」では、動機が弱くて続かなかったに違いありません。社会に出て、人生経験を積んでもう一度、司祭召命を考えることができたのは本当に良かったと思います。そして、2 回目の心変わり。もし、柳田修練長が「そうですか。残念ですが・・・元気でいて下さい」と言われていたら、私の司祭への道はあの時、閉ざされていました。その時は、真剣に考えているつもりでも、見えてないところがあって、それを指摘してもらって、人生の流れが変わりました。

皆さんにも、似た体験がおありでしょうか？ 考え直すことは大切なことです。また、助言をしてくださるのはありがたいことです。限界のある私たちに、神様は考え直すように助言をくださいます。葛藤して、考え直して、神様の思いを生きられるよう願ってミサを続けましょう。